

谷間の景色 ～ふたつの選挙の間で～

自由民主党総裁選挙と民主党の代表選挙が並走し、この間国政が停滞している。原発の担当大臣が立候補要請を受けはしたが「立候補しない、今は大事な仕事を停滞させるわけにいかない」という反応をしたのが唯一の「国民目線」だったかもしれない。特定の政党の代表者を決める選挙で、全国民向けの記者会見や街頭演説をやっていた。それぞれの政党の関係者だけが参加する選挙なので、投票権もない我々に聞かせる必要のない内容だし、おまけに内容が乏しくて聞くに堪えない。「家の中で静かにやれよ！」と言いたい。

自由民主党総裁選挙の立候補者が決まるまでの流れは面白かった。元総理大臣とは言え、その職を途中で投げ出して涙の記者会見までしたような男が再びそのポジションを狙っているのは常識はずれとしか言いようがない。「現総裁が立候補するなら支援にまわりたい」と述べていた幹事長が途中から豹変した。後で操っている人がいるのが見えてしまうような展開で、おまけに兵糧攻めの脅しを受けたらすぐに退却してしまう現総裁の対応も笑止千万。そして、投げ出し総裁が再び選ばれて息巻いているが。。。。。

民主党代表選挙にも唾然とするような場面が沢山見られた。「本選挙で過半数の支持を得ることは難しいので、決戦投票で誰と組むか」をポイントに立候補を決めようとしている人がいた。最初から数合わせだけを考え、「この先誰に付けば良さそうか」だけが先行している永田町の論理（倫理？）が見えすぎる。その昔の右派社会党とその流れから派生した民社党、そこに加わった自民党崩れの新自由クラブなどが加わり、さらにそのような寄せ集めの脆弱さも知らずに加わった人達で構成されている民主党。ひとつの政見に人が集まっている訳ではないので、必然的にことあるごとにめごとが起きる。このような政党に「美味しそうなメニュー」を示されて投票してしまった有権者達の大半は、もう次の流行に乗ろうとしている。一番無責任なのは選挙民たる一般国民かもしれない。

今年度の予算は確定したが、その財源の40%を占める赤字国債を発行することが決まっていない。そのために様々な不具合が生まれつつあるようである。予算確定と財源確定が別に審議されることはこれまでも行われてきたことだが、その間に国会が休みになってしまい、空白期間が長引くことになった。そもそも国家予算の財源の40%を赤字国債に委ねる状態が異常であるが、さらに財源を確保する議論をする前に予算だけ確定してしまうというのは一般国民の常識としては理解できない。一般国民に向けて「うけねらい」の政策を行っている「ばらまき政治」の最たるものであろう。

民主党の代表選挙は、大騒ぎはしたものの野田再選で幕が下りた。次は党役員の人選、そして内閣改造。冒頭述べた原発担当大臣は政調会長を命じられ、我が国最大の懸案事項を抱える財務大臣も交代するとアナウンスされた。先に述べた原発担当大臣の「総裁選に立候補しない」という説明の論理だとしたら、これを断って原発担当大臣続投を主張するのが筋だと思うが。。。。。また新しい大臣が登場して、学習し直して仕事が軌道に乗るまでまだまだ空白が続くのかもしれない。悪くすると、または失言で退陣というようなことはないことを祈るのみ。

この文章が読者の目に触れる頃には、両党とも人事も決まり改造内閣の布陣も決まり、長いお休みを終えて本来の仕事に戻っていることと思う。さていかなる動きが見られるだろうか？ 以上